



Title	シバンムシリガタバチ？！
Author(s)	古川, 研一
Citation	makoto. 1978, 22, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86151
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

シバンムシアリガタバチ？！

大阪府衛生部環境衛生課

環境衛生係長 古川研一

「『へんな虫』鐵筋住宅に出没」という見出しの昨年（S. 五十二年）九月十九日の朝日新聞家庭欄のトップ記事は、「一見アカアリ風で、ほんとはハチの仲間」アリガタバチといふ。この虫はアリガタバチ科の昆虫で、一般にこの科の仲間は雌が無翅で、鱗翅目（チョオ・ガの仲間）か鞘翅目（甲虫の仲間）の幼虫に外部寄生するものが多い。現在まで日本では本種の外、三属三種が確認されており、それらは従来から衛生害虫として有名なクロアリガタバチ、また農業害虫であるメイガ、ハマキガ類の幼虫に寄生し天敵として有益なハマキアリガタバチ、ヒメマルカツオブシムシの幼虫に寄生するキアシアリガタバチ等。

である（岩田久一雄著、本能の進化、蜂の比較習性学的研究より）。さて本題のシバンムシアリガタバチ (*Cephalonomia gallincola* Ashm.) はタロアリガタバチ（体長・二・三ミリ）に比べてやや小型で、雌成虫は無翅で体長約二ミリ、アリによく似た形をしている。雄

成虫は有翅で体長約一・五ミリ、ハチの形をしている。雌雄共に触角はアリのようにも字形に曲がり、体色は全体にアメイロをしています（別図参照）。

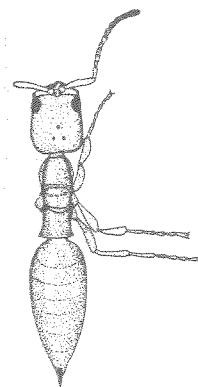
本種の大阪府下における過去三年間の発生状況をまとめてみると発生期間は主に六月から九月中旬の約三ヶ月間である。発生場所は殆んどが鉄筋コンクリートの建物である。この虫は交尾後タバコシバンムシ（タタミオモテシバンムンカ）の幼虫を見つけると毒針により麻酔し、その腹部に

アリガタバチとよく似ており、室内で触れて毒針に刺されると激しい痛みを感じ、発赤を伴う。残して普通は一週間、ひどい場合は十日程治癒するまでにかかる。

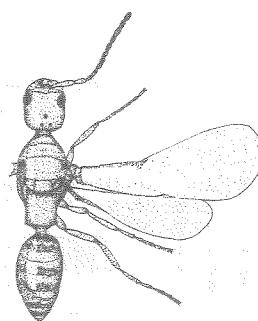
本種の雌成虫は交尾後タバコシバンムシの疊への侵入を防止すると共にシバンムシアリガタバチ成虫の駆除はDDVP又はビレスロイド系の油剤の煙霧又はくん煙による速効的駆除を並用する

と効果的である。又、疊の裏側、側面等に有機リン剤の油剤をうまく噴霧又は塗布する方法と上記の速効法を並用する方法も効果があると言われている。

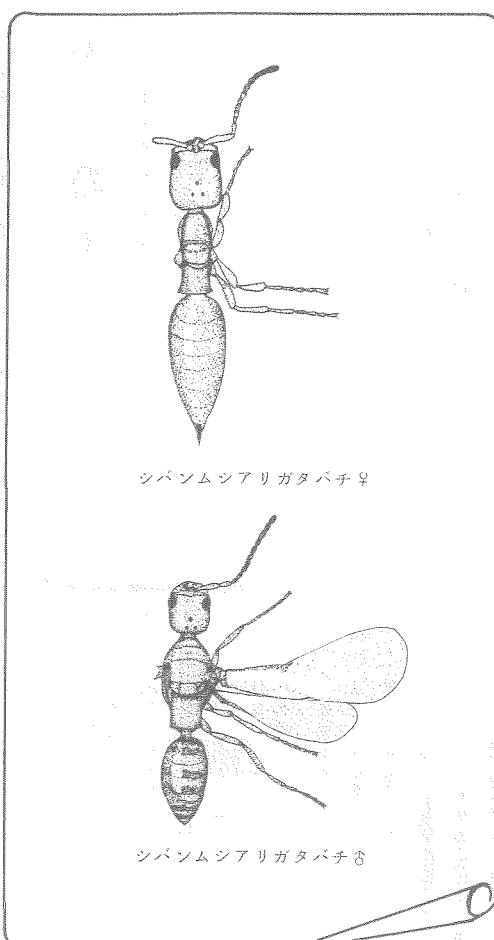
刺された時の治療法は現在、これといった特効的な方法はなく、一般的な虫さされの薬をつける。むしろアロエ、ミセベヤ等の多肉植物の葉汁をすり込む方が効果的でないかと考えられる。



シバンムシアリガタバチ♀



シバンムシアリガタバチ♂



シバンムシアリガタバチ♂